

「特別の教科 道徳」とは？

—小P連のみなさんとの素敵な時間を通して—

先生方も毎月
一度18時か
ら学び合っ
ています。

1時間目 「特別の教科 道徳」とは？

【なぜ道徳の授業を変えなくてはならないのでしょうか？】

◇いじめ問題

→「いじめはいけない」と分かっているながら、子どもたちはいじめをしてしまう。頭で理解しているだけでなく、実際の行動や生き方を変えていけるような授業への転換が求められている。

1時間目 「特別の教科 道徳」とは？

【なぜ道徳の授業を変えなくてはならないのでしょうか？】

◇時代の変化

→子どもたちが社会で活躍する頃には、グローバル化がさらに進み、AIをはじめ、科学技術の進歩により、働き方が変わるであろう。そんな社会でたくましく生き抜くために「教師の指示待ち、言われたことしかしない子ども」ではなく、「自分で考え行動できる子ども」の育成に舵を切った。

1時間目 「特別の教科 道徳」とは？

【なぜ道徳の授業を変えなくてはならないのでしょうか？】

◇「主体的・対話的で深い学び」の推進

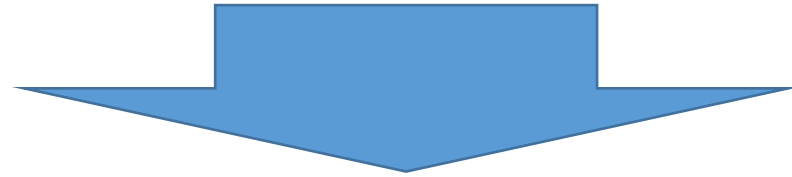
→新しい学習指導要領が2020年度からスタートする。その改革の肝が授業であり、「主体的・対話的で深い学び」がそのキーワードである。

教科道徳はそれに先行し、「考え、議論する道徳」への質的転換を進めることでそこにつながる。

「特別の教科 道徳」(道徳科)の誕生

【なぜ】

現実社会や日常生活において1つの出来事に価値観がぶつかり合う場面がたくさんある。



1つの価値観に先生が収束していこうと授業を進めていくことが子供たちに伝わり、子供たちも本音ではなく、建前を発表することがあったのでは……？

「修一！」

お母さんの声に、修一くんは目をさました。

「もう、7時50分よ。学校に遅れるわよ。」

修一くんは、飛び起きました。顔をあらって、歯をみがき、

着替えて、ランドセルをしょって、「行ってきます」も言わずに、

学校に走って向かいました。

学校の近くまで来ると、おじいさんが苦しそうにうずくまっていました。

修一くんは、……………

みなさんなら、どのような行動に出られますか？

1

2

3

☆様々な価値観があることを知る。

まず、自分はどう思い、どうするか、を考える。

そして、みんなと話し合い、聴き合い、相手のことやその場の状況で改めて自分ならどうするかを考え直す時間

→正解はない！！「答えは子どもたちの中にある。」

「特別の教科 道徳」の内容項目

A 主として自分自身の関すること

善悪の判断・自律・自由と責任、正直・誠実、節度・節制、個性の伸長
希望と勇気・努力と強い意志、真理の探究

B 主として人との関わりに関すること

親切・おもいやり、感謝、礼儀、友情・信頼、相互理解・寛容

C 主として集団や社会との関わりに関すること

規則の尊重、公正・公平・社会正義、勤労・公共の精神、家族愛・家庭生活の充実、よりよい学校生活・集団生活の充実、伝統と文化の尊重・国や郷土を愛する態度、国際理解・国際親善

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

生命の尊さ、自然愛護、感動・畏敬の念、よりよく生きる喜び

「特別の教科 道徳」(道徳科)の誕生

「さまざまな価値観が内在する問題」

「答えが1つではない道徳的な課題」

を子どもたち一人一人自分だったらどうすると向き合い、
これまでありがちであった登場人物の心情を読み取り、
一つの答えに集約する道徳から、

『自分なりに考える道徳』

『自分以外の人と議論し合う道徳』

へと変え、様々な出来事に対して他者の考えをもとに、
自分なら今後どうしていかを考える時間とする。

「特別の教科 道徳」(道徳科)の誕生

【これまでと違うのかな】

これまで以上に、問題に対して自分ならどうするかという自分の生き方に関わる問題として捉え、その解決をめざす学習となる。

そのためには、子どもたちが自分以外の人の考えを傾聴し、それに対する自分なりの考えをもつことが大切になってきます。

自分と考えの違う人がいて当たり前であり、その人たちと話し合い、どうすることがいいのか考える時間である。

他者と共によりよく生きるための基礎となる道徳性を養うため、
答えが1つではない道徳的な課題を一人一人が自分ならどうするか考え、他者と議論し、よりよい自分なりの答えを求める学びとする。

「特別の教科 道徳」に求められる評価について

あくまで、「道徳科」の授業の様子を評価することであり、日常生活の道徳性が育ったかを評価するものではない。→それは、行動の評価の欄で行う。

- ◇数値による評価ではなく、記述式とすること。
- ◇個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえて評価する。
- ◇他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒が授業の中でいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価である。
- ◇学習活動において児童生徒がいろいろな考え方や見方を受け止めているか、道徳的価値の理解を自分事として捉え深めているかを重視する。
- ◇調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること。

「特別の教科 道徳」の評価の文例

- ◇道徳的価値について、友達などの考えを聞き、自分の考えと比べながら考えようとしている。
- ◇道徳的価値について、1つの見方ではなく、様々な角度から捉えて考えようとしている。
- ◇読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。